

第六期 第二十六回 np.広告学校 講義録

【小霜クラス いじめ防止ポスター】①

(注・受講生の表現案に使用されている画像は基本的にネット上のフリーのものや自分たちで撮影したのですが、もし肖像権などで問題あるものがございましたら contact@noprobem.co.jp までご連絡ください。)

◆日時

2014年1月20日

◆出席者

で?、未満、コゲ太、食い丸、おにぎり、ピロリ、花火、滑舌

小学生、ネチ・ネチ郎、世界の野糞、安倍さん、垢ブリ、センター、ホへ〜

生徒15名(女性8名男性7名)

+小霜・付き人(np.)・インターン

小霜：えっとー、君らを書いてきた案を見て思ったことが二つあって、一つは、まあ、この課題ってさ、どんだけ人間を見るかってことじゃん？人間の捉え方が薄いひとが多いなあ、って。

小霜：ドラマ「明日ママがいない」は大人発想では、人間をとらえる事が現実の世界でも薄っぺらくなっているのではないか。

あの、ドラマでさ、「明日ママがいない」ってのやってるじゃない？あれさ、養護施設からクレーム殺到で、実際はあんなんだって思われたら困るみたいなね。速攻中止しろっていうのが来てるって話なんだけどさ。

僕が見て思った感想としてはね、実態がああだとは普通思わないよ。ああいうのももしかしたらあるかもしれないけど、みんながみんなそうだとは思わないと思う。ただね、施設っていうものをモチーフにするのは「手段」じゃない？それを目的とするのはドキュメンタリーじゃない？そうじゃなくてドラマなんだから、それを手段として人間を表現するのが目的だと思うんだけど、なんかさ、僕、人間っていうのが描けてないんじゃないかなあって思ったわけ。ていうのもさ、子どもの発想が、大人発想なんだよ。自分を捨てた親に対して、こっちからもう別れてやるんだって思う、とかさ、自分の親のところに行って、「ガシャン」とかも投げたりするんだけど、それが大人発想なの。なぜかっていうと、子どもっていうのは、親に捨てられたら、親に捨てられるくらい自分は悪い子なんだっていうふうに思うわけ。だって、すべての判断基準は、子

どもからすると、親なんだから。親が、世の中で、世界のすべてなんだよね。だから、親がほめたら、「ああ、そういうことすればいいんだな」と思って、親が怒ったら、「ああ、そういうことはしちゃいけないんだな」って思うんだ。だから、やつあたりで子どもを殴ったりすると、子どもは、やつあたりで殴られたとは思わないで、「わ、あたし何か悪いことしたんだ」って思うわけね。だから、親が子どもを捨てる時に、「なんてそんなひどいことするんだ」ってのは、大人の発想なんだよ。子どもはそんなこと思うわけがない。で、自分を捨てたり虐待されたりして物投げたいとか思っても、投げられないわけ。子どもは、投げる矛先がどこにいかってというと、自分に向かうわけね。それがリストカットだったりするわけさ。

だから僕はなんか、人間というものを描くドラマが、どんどんどんどん表層的になっていってるように思うんだよね。

その影響ってこともあって、実際の現実の世界でも、人間をとらえるっていうことがちょっと浅はかになっているんじゃないかなって思ったりするわけ。

話がどんどん横に逸れるんだけど、なんだっけ、おんなじようなドラマで、「僕のいた時間」っていうのもやってるよね。あの、ALSに若い子がなっちゃうっていう話。

全然共感できないところがひとつあってさ、その主人公の彼女が、多部未華子なんだけど、就活で、何十社受けても全部落ちるっていうね。そんなのあり得るか、って思うわけ。多部未華子が面接に来たら、俺だったら、「はじめまして」の「は」も言わないうちから「採用！」って言うわ。

一同：爆笑

小霜：そうだろ？（笑）だってね、もし、あんな子が何十社も落ちるとしたら、なんかさ、アスペルガー症候群かなんかになってたりしてね、面接官の言うことに全然とんちんかんなこと答えるとかさ、それで面接官が唾然とするとかさ。でも本人は何が悪いのか全然わかってないとかさ。そんな設定にでもしなければ、成り立たないと思う。まったく共感できねえな、と。で、なんでドラマがそういうことになってきてるのが、不思議だなんて。それで、君たちの課題を見ている、なんか薄いなあって。ほんとに人間を見ているのかなあって。

【おにぎりのストラテジー案】

「いじめ防止ポスター」戦略 / おにぎり

<ターゲット>
中学生・高校生

<ターゲットインサイト>
いじめを助けて巻き込まれるのは厄介だ。

<プロポジション>
大人になったら、見ているだけでも加害者だ。

小霜：いじめを解決してやろうという気がない。

で、もう一つ思ったこと。「いじめを助けて巻き込まれるのは厄介だ」って、「大人になったら見ているだけでも加害者だ」って、でもさ、これ君らのことじゃないの？

というのはね、あの、今年入って僕がこの課題を出して今まで三週間くらいあったわけで、「結構難しいの来たぞ」、って思ったと思うんだよ。「難題だな」って。それでね、「難題だな」って思ったまま、三週間モヤモヤして、そのモヤモヤを仮説にして持ってくるのが正しい課題の捉え方だと思うんだけど、これはね、考えてないよね。なにも。だって、いじめ問題ってまったく解決してないじゃない。それで、今までのやり方でも解決しないってのが分かってるわけじゃない。じゃあ、今までにないなにか全然違う視点から見るとか、全然違うやり方を模索してみるとか、ってことをしないとさ、解決するわけがないってわかってるでしょ。つまり、解決する気がないってことだよ。これ君だけじゃないよ。ほかのひともそうだけだね。

「いや、俺のアイデアで解決してやろう」って思ってるひとは結構少ないなって思ったわけ。

「みんなが他人事だと思って傍観している」って書いてるけどさ、これ自分たちのことじゃん。

今日はちょっとやり方を変えて、ひとりひとり出していって、手短に、三分くらいで、「自分はこういう風に思った。で、こういう風になると、問題解決になるんじゃないかって考えた」ってことを発表してほしいと思うんだよね。座ったままでいいから。それ聞いて、「共感できた」、「何かそれは解決につながりそうだ」、って思ったら挙手する。それで、「いや、それじゃ解決にならんだろ」って思ったら手を上げないってことをやってみようと思うんだ。じゃあ、やってみて。

おにぎり：私は、いじめって、いじめるひとと、いじめられているひとがいると思うんですけど、いじているひと

ってというのは、自覚がなくて、やってしまっているひとも多いのかなって思って、ただ、一対一とかではなくて、一対クラス中とか。で、そのなかで、いじめられているひと側につくひとってなかなかいないと思うんですけど、そこをなんか変えるというか、そのことを見ているだけのひとも加害者だと思って、その人たちにどうやって伝えればいいのかなんて考えて、こういう案にしたんですけど、なんか自分のなかでも、考えていて一周してしまって、最初に考えた薄っぺらい言葉になって出してしまったなあって、いま、ちょっとまだまだ考える力が不足しているなあ、って思いました。

小霜：じゃあ、ここに出ている考え方が、問題解決の突破口になるだろう、その可能性があるだろうな、って思う人…。ゼロ。はい、じゃあ次。

【インターンのストラテジー案】

いじめ防止ポスター ストラテジー

ターゲット:いじめを傍観している人

インサイト:自分がいじめを止めたら自分がいじめるかも知れないと思って止めることや声をかけることができない

プロポジション:自分がいじめを止めたら、いじめられている人を救ってあげることができる

ストラテジー

ターゲット:いじめられている人

インサイト:親にも先生にも相談できない。相談したら告げ口したと思われる…親には自分がいじめられているなんて恥ずかしくて言えない

プロポジション:誰にも相談できないことを告げ口にはならない大人の人に話してみませんか。

インターン：わたしも、いじめを傍観して見ているひとをターゲットにしたものと、あと、いじめられているひと本人をターゲットに置いたものとあるんですけど、こっちのいじめを傍観しているひとは、私もまだまだ考えが薄っぺらいです。いじめられているひとの方は、親にも先生にも相談できなくて一人で悩んでいるのかなって思ってた、中学生とか高校生だったら、SNSとか、顔も知らない人と話すことができるんで、なんか相談できないことを、親とか先生だったら告げ口になってしまうと思うんで、ボランティアアかなんかで募ったひとに相談にのってもらえませんかって感じで考えたんですけど。

小霜：はい、じゃあ挙手。…はい、ゼロ。

【コゲ太のストラテジー案】

いじめ防止ポスター ストラテジー コゲ太

- 競合 : -
- ターゲット : いじめをしているひとたち(集団)
- インサイト : 悪いことをしているとなんとなくわかっているけれど、やめると自分がいじめられそうでやめられない
- USP : -
- プロポジション : いじめという負け戦から、いま抜け出そう

いじめ防止ポスター ストラテジー コゲ太

- 競合 : -
- ターゲット : いじめられているひと
- インサイト : いまの状況が辛いけれど、どうしようもない
- USP : -
- プロポジション : いじめという小さい世界だけでなく、他の世界(や視野)を持つ

コゲ太：私も、いじめられている人をターゲットに置いたのもうひとつが、いじめをしているひとたちの集団に向けて、考えました。で、いじめられている人の方なんですけど、いじめられている人は、自分の今の状況が辛いけど、それを自分ではどうしようもないと思っていると思う。それに向けて、クラスとかっていうのは

実はすごく小さいもので、多分中学生とか高校生っていうのは、クラスとか学校とかが、世界の全部っていうか、そう思っていると思ったので、学校のクラスとかそういう小さい世界だけじゃなくて、もっと広い視野を広げようっていうプロポジションでひとつ考えました。

で、もう一つが、いじめをしているひとたち集団は、悪いことをしているっていう自覚は、程度があるとは思うんですけど、悪いことをしている自覚はあると思っていて、でももしやめるとかすると、今度は自分がいじめられるとか、なかなかやめられないのはそういうことが原因だと思った。プロポジションに、

「いじめというものが実は負け戦」というか、悪いことだという風に定義をつけたいというか、いじめっていう単語がもうちょっと、悪いことだという風に定義したかったんですけど、いまプロポジションでそこまでいけてないんですけど、そこから抜け出そうっていうプロポジションで考えています。

小霜：はい、拳手。…いない。

【滑舌のストラテジー案】

いじめ防止ポスター 滑舌_A

ターゲット	実際にいじている子
インサイト	何も起きない日常がつまらなくて、趣味がいじめになる
プロポジション	いじめをしている時間を、もっと楽しいことに使ってみては？

いじめ防止ポスター 滑舌_B

ターゲット	実際にいじめている子
インサイト	みんなの注目を集められる存在でいたい。
プロポジション	人を踏み台にして、注目を集めるやり方はカッコ悪い。

滑舌：3つの種類があると思っていて、まずいじめられているひとと、いじめの首謀者になっているひとと、いじめをしているひとの周りでなんとなく流されていじめを眺めてしまっている人がいると。その首謀者を止めるストラテジーがいじめをなくすために一番いいと思ったので、ターゲットは実際にいじめをしている子という風に設定しました。で、一つ目の方では、なんでいじめをする子は、いじめるんだろうって考えたときに、たぶんいじめをする子は毎日がつまらないから、楽しさを求めていじめをしちゃうんじゃないかなって思って、インサイトが、「毎日がつまらなくて趣味がいじめになってしまう」っていう風において、それを解決するためのプロポジションとして、「いじめをしている時間をもっと別のことに使ってみては」ということにして、いじめ以外の選択肢を提示できるようなポスターにしたいなって思いました。

それで、二つ目は、これもターゲットをいじめをしている子にして、いじめをしている子って、勉強とかスポーツとかで一番になれない子が、なんか自分が一番というか、ヒエラルキーのトップに立つためにいじめをしているのかなって自分で仮説を立てて、インサイトは「みんなの注目を集められるような存在でいたい」という風にしました。で、プロポジションが、実際にそういうインサイトを持っている人に対して、「人を踏み台にして注目を集めるのはカッコ悪い」という風に提案できるのかなって思いました。以上です。

小霜：拳手…はい、ひとり。

小霜：次、これはシカシカ。

【シカシカのストラテジー案】

ストラテジー A 案

シカシカ

ターゲット

いじめている（自分はいじめとっていないものも含む）子ども達

ターゲットインサイト

いじめていないと、自分がいじめられるんじゃないだろうか。

プロポジション

振り返ったとき、いじめてた思い出しか残らない学校生活でいいのだろうか。
あなたが大人になったとき、またここに子どもを入学させたいと思えるような学校に。

ストラテジー B 案

シカシカ

ターゲット

まわりからは、いじめられていると認識されている子達

ターゲットインサイト

自分は、いじめられてなんかない。

プロポジション

いじめと向き合うことは、自分と向き合うことでもある。
ごまかさずに、いじめられている自分から逃げてはいけない。

コゲ太：今日は欠席です。

小霜：じゃあ、次。小学生。

【小学生のストラテジー案】

いじめ防止ポスター A 案

小学生

ターゲット	いじめ傍観者
-------	--------

インサイト	いじめに否定的な態度を取ることで、校内での地位が下がるのが怖い。
Proposition	いじめは卑怯で賤しい行為。 加害者には冷淡な対応を。

いじめ防止ポスター B 案

小学生

ターゲット	教職員
インサイト	いじめを発見しても、自分の裁量に任されており、加害者の処罰がしづら い。
Proposition	いじめ発覚時の、明確なルールを策定しませんか。

小学生：ひとつめのターゲットが、いじめを傍観している人で、いじめを傍観している人がなんで指摘することができないのかってところで、やっぱり、チクリは卑怯だっていう考え方が蔓延していて、やっぱ、その学校のなかのヒエラルキーとして、いじめをしている人の方が暴力とかもしているから地位が高いのかなって思った。その人たちに比べて傍観している人たちが、否定的な態度をとることによって地位が下がるのが怖いってところがインサイトで、その価値観を変えたいなって思って。いじめの方が卑怯で卑しい行為だから、加害者に対して、冷淡な態度をみんなでとろうって感じです。

ふたつめは、教職員で、いじめに対しての罰し方っていうのが曖昧にされているのかなって感じがして、実際見つけても隠ぺい気質ってのがあって、実際見つけても困るし、いじめがない方がいいと思うから、なかなかしっかり対応するのは難しいと思うんですけど、加害者に対して発覚したときのルールの策定をはっきりしましょうっていうことで、加害者に対して、犯罪行為を犯罪行為として、警察呼ぶとか、そういうのがあったら抑止力になるんじゃないかと思ってつくりました。

小霜：はい、拳手。…ゼロ。

【センターのストラテジー案】

課題：いじめに対するポスター ストラテジー案

ストラテジーA案

センター

競合：————

USP：————

ターゲット：いじめをされている子供

インサイト：自分にはもう逃げ道がない

プロポジション：されていることを、ネットで匿名で言ってみよう。
同じように過去にいじめられていた人の経験や知識を知ろう。

課題：いじめに対するポスター ストラテジー案

ストラテジーB案

センター

競合：————

USP：————

ターゲット：いじめをしている子供

インサイト：生活に何らかのストレスを抱えている

プロポジション：いじめをしているあなたには
悩んでいることがあるはずだから、誰かに相談してみよう。

センター：僕はまず、ネットでいじめられている人の記事をずっと読んでいたんですけど、ほんとに酷いことをされていて、ちょっと気分悪くなっちゃいました。親にも先生にも言えないし、友達に言うと、友達もいじめの対象になっちゃうだろうからって言えないって書いてあって八方ふさがりだよな、と。僕は割と悩みとかあった時は、文字にすることで救われてた部分があったことを思い出して、で、実際にネット上にいじめ専用の掲示板みたいなのがあって、荒れているところは荒れているんですけど、しっかりしたところがひとつあって。そこでは、自分のされたこととか、自分の現状をバーって書いてて、それに対してあなたは悪くないってちゃんと言ってきてる人がいた。匿名だから自分の現状をありのまま言えるんだなと思ったんで、A案は、いじめられていて、逃げ道がないと思っている人に対して、匿名でネットで具体的に言って、それに対してあなたは悪くないってちゃんと言ってもらうことをしてほしいと思いました。で、B案は、だとしてもそういう人をいくら言ってもいじめの数はなくならないと思ったので、いじめをしている人をターゲットにしました。教職をとっているひとにいじめについて聞いたんですけど、そこでぼろっと出た言葉があって、いじめをしている側もなんらかのストレスを抱えているんじゃないかなって。

それにすごいピンときて。いままでウィキペディアとか見ていても、いじめは強いものが弱いものにやられて書き方だったんですけど、それだともう完璧に、弱いからいじめられている、強いからいじめているっていうのが、僕はかなりいけないことだと思って、いじめは悪いし、男は誰だって、どっちかって言ったら強い男の方がいいと思うんでそういうイメージはよくない。いじめをしているほうが弱い、いじめをしている側が悩みを抱えているんだってイメージづけをしたら、いじめている人も、たとえば男だったら、「あいつ、いじめをするほど悩んでるんだ」って思わした方が、「いじめはダサい」とかよりも、もっと、根本的に、悩みを抱えてるって言った方が、いいんじゃないかって思って、そうしました。

小霜：はい、拳手。…11人。

【安倍さんのストラテジー案】

いじめ防止ポスターA案		安倍さん
競合		
USP		
ターゲット	いじめ加害者	
インサイト	弱者を攻撃することで、自分の地位が高いことを確認したい	
Proposition	弱者を攻撃し、貶めて、自分の相対的な地位は上がっても、自分の価値は高まらない。	

いじめ防止ポスターB1案		安倍さん
競合		
USP		
ターゲット	いじめの消極的俯瞰者（いじめを推すほどではないが何もしない人）	
インサイト	自分ゴトではないことに足をつっ込んで、面倒を被りたくない	
Proposition	いじめが起こっていたクラスに自分が所属していた事実がこれから一生残る。それよりは、第三者に通報し、自分がクラスからいじめを無くした過去を残そう。	

競合	
USP	
ターゲット	いじめ被害者
インサイト	いじめの実体を隠し、自分の弱みを隠したい
Proposition	強い人ほど、弱さを開示できる。弱さを開示することで強くなれる。周囲の人にいじめの事実を伝えよう。

安倍さん：僕は3つ持ってきました。僕は小学校のときにいじめられたこともいじめたこともあるんですけど、その時のことを思い出しながらやりました。

いじめが起きたときに、関係者がいると思う。まずいじめられる人と、いじめる人と、それを応援している傍観者の人と、それを引いた目で傍観している人と、それぞれの親御さんと、あと先生がいると思ってて、いじめってそれぞれの関係の微妙な均衡のところで成り立っていると思う。どこかの切り口からいけば崩せるかと最初に考えました。A案はいじめ加害者で、小学生のときに自分がいじめてた側にいたときは、なんでやってたかって言うと、相手の地位を下げたいって気持ちがあったからで、それは確かに相対的な地位は上がるか上がらないかはわからないけど、でも本人はそう思ってて、自分の絶対的な価値は上がらないんだよっていうことをメッセージにしたいと思いました。

で、いじめの消極的傍観者に対しては、結局その人たちにとっていじめられている人っていうのは関係がないっていうか、自分のことではないので、その人たちにいじめられているっていうのが自分のことだと考えてもらおうと思いました。で、なんで関係あるかって根拠が、将来自分が所属していたクラスが、いじめが起こっていたってことになるから、今第三者に通報して、自分がいじめをなくした過去を残そう。ってところですよ。

もうひとついじめ被害者は、自分のいじめの実態を周りに話すと、弱みだし、それを話すことはすごく辛いことだと思うんです。で、伝えたいのは、「弱さを開示できるのは強さでもある」って「弱さを開示することで強くなるよ」、それで、いじめの事実を周囲の人たちに伝えようって感じです。この3つです。

小霜：はい、拳手。…ゼロ。

【未満のストラテジー案】

いじめ防止／ストラテジー@未満

A-1案

ターゲット
中学生

インサイト
自分の存在を認めてほしい

プロポジション
いじめ以外で頑張ったほうが、両親は君のことを見てくれる。

いじめ防止／ストラテジー@未満

A-2案

ターゲット
中学生

インサイト
ひとりになりたくない

プロポジション
一緒にいじている親友は、
きっと、いじめを辞めたいのに言えないだけだから、もう辞めよう。

未満：一応いまターゲットを二つとも中学生にしているんですけど、これはいじめをしているひとをターゲットにしています。で、これを考えるにあたって思ったことがあって、なんか少し痴漢防止のポスターに似ているなっ
て思いました。どういうことかっていうと、結構見ると不思議に思うんですけど、痴漢防止のポスターって、「
相手が傷つくからやめましょう」って結構多いんですが、でもしている人にとっては、相手が傷つこうがど
うでもよくて、どっちかっていうと、自分の満足、したいだけ、っていうのが結構あると思います。
で、いじめも多分これに近くって、相手が好きとか嫌いとかどうでもよくて、多分いじめをする人の問題なの
かなって思います。たとえば A-1 案のインサイトなんですけど、「自分の存在を認めてほしい」って結構中学
生っていうか思春期の子に多い考え方なのかなって思います。ネットで調べていたときに出てきたのが、いじ
めている子に対して嫉妬心があるっていうのがあって、自分に振り向いてほしい、認めてほしいっていうとこ

ろで、攻撃してしまって、自分に注目を集めたいってのがあっていうのを見ました。こういう時、若い子って、結構両親とか周囲の存在が結構大きいのかなって思って、プロポジションが、「いじめ以外のことで頑張った方が、両親は君のことを見てくれるよ」っていうことで、いじめをしても両親は振り向いてくれないし、かえって評価が下がるんだから、もっと別のことでアピールしましょうっていう風に考えました。

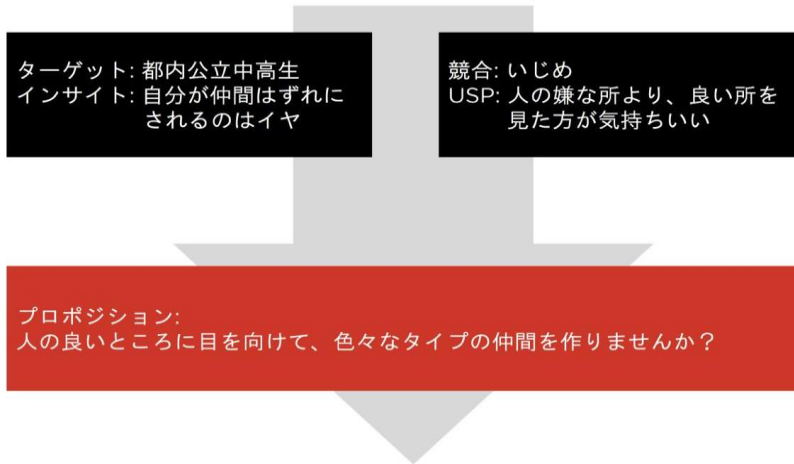
2案目の方は、「ひとりになりたくない」ってインサイトに置きました。中学生のころって、結構集団行動が多いと思うんですけど、それってやっぱり、友達がいじめしているけどやめられない、やめたら一人になっちゃういそいで嫌だっていうのがあると思うんですけど、なんかそこをうまくプロポジションで解決できないかな、と思いました。で、プロポジションは、「一緒にいじめをしている親友は、きっともういじめをやめたいのにしているだけだからもうやめよう」っていうのにしました。

小霜：はい。いち、にい、さん…4人。

【ネチ・ネチ郎のストラテジー案】

A案：今世の中にあるいい案に倣って

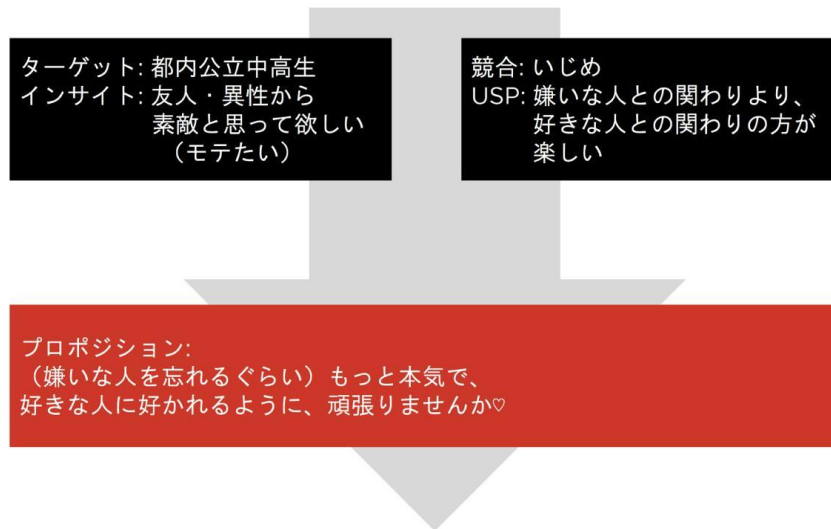
ネチ・ネチ郎



※参考: イトコメガネ
http://www.ad-c.or.jp/campaign/self_all/02/

B案：独自視点をもって

ネチ・ネチ郎



ネチ・ネチ郎: えっと、僕もみなさんと同じように、3つの視点で考えて。いじめを中心的にする人と、いじめを傍観する人と、いじめられている人がいると思ってて、それぞれ苦しみと問題の本質みたいなものを見てみたときに、いじめられている人の方が苦しみは大きいけど、解決すべき問題は実はいじめている人の方を解決したらいいのかな、っと。苦しみを和らげてあげる広告って、今までにたくさんつくられたのかなって思うんですけど、なんかそっちじゃないなって思って。僕も未満さんと同じで、いじ

めっていう世界観を出したらその時点で負けていうか、それがいじめにつながるような気がしたので、いじめているひとたちになにか解決させてあげる広告ってつくれないのかなあ、って思いました。で、ちょっと細かいんですけど、なんでそう思ったのかっていうと、心の問題みたいなものもあるかなって思っていて、今現在すごく心にゆとりがないから、心に響くものをつければいいって話も、なかなか受け入れがたい状況なのかな、とっていて、それだったらまだいろんな表現っていうか、アウトプット、刺激に対して、すごく心の余裕がある人たちに向けて広告した方がいいのかなって考えました。それで A 案が、ターゲットは中高生、自分は仲間はずれにされるのは嫌だ、とっている人に対して、人の嫌なところよりいいところを見たほうが気持ちいいってことを言ってあげたらどうだろうなって。

これはいま世の中にあるいいものになったのですが、「いいこと眼鏡」っていう CM、AC でやっているの知っていますか？

ホへ〜：知っています。

ネチ・ネチ郎：これは人の悪いところに目をむけるのではなく、いいところに目を向けて、いろんなタイプの人を友達にしていきませんか？というアプローチというのがあるのかなあと。

もう一つは、もう少しいいすぎるというか、これは嫌いな人と関わるより、自分の好きな人と関わる方が楽しいから、もっと自分の好きな人とのコミュニケーションを真剣に考えようよ、もっと青春しようよ、みたいなことをどう動かすか、っていうのが表現になってくると思うんですけど。

A 案 B 案ともに、いじめっていう世界観はあまり出さずに、楽しいほうに目を向けてみたらどうだろうかっていう案にしました。

小霜：はい。…ゼロ。

【で？のストラテジー案】

A案:いじめ相談ダイヤルへの誘導

- 競合?:いじめ相談ダイヤルの電話番号を書いたカード(すぐ捨てられてしまう)
- ターゲット:いじめに苦しんでいる人
- ターゲットインサイト:気持ちを吐き出したいけど誰にも言えない。
- プロポジション:気持ちだけでも受け止めます。
- USP:今回はなし
(いじめられている人の行動の選択肢を増やす)
で?

B案:学校を休むとか、転校の提案

- 競合?:なし
- ターゲット:いじめに苦しんでいる人
- ターゲットインサイト:いじめられているのに、学校に通うのが辛い。
- プロポジション:逃げではなく、学校から離れる、という手もある。立ち向かうことだけが全てじゃない。
- USP:今回はなし
(いじめられている人の行動の選択肢を増やす)
で?

考えて生まれたモヤモヤ で？

- 今回の課題、非常に難しかったです。
- 悩みました。迷いました。
- 調べて行くうちに一つ感じたことは、「いじめはなくなる」ということ。社会問題となってニュースに取り上げられた、いじめ事件の多くは最後に誰かの死が絡んでいます。
- そこで、「いじめ防止ポスター」の究極の目的は、「苦しんでいる人を死なせないこと」だと考えました。
- 大人の世界でもいじめは起こります。でも、なんで中学生や高校生は苦しいんだろう？
- 社会人になってわかった事ですが、選択肢はいろいろある。
- 学生の時って学校と家庭がメインの世界で、その事に気付かずにいたと思います。
(個人的に)
- 先生に話すことは告げ口、学校を休んだり転校することは逃げ
- 親に話すことは恥、そういう空気は簡単に消えません。なかなか消せない。
- そもそも、何をやっていじめは「解決」と呼べるのでしょうか。
- 死ぬほど思いつめている人だけにでも、届くポスターを作りたいなと思いました。

で？ : 私がまず最初に考えたのが、いじめの定義をウィキペディアで調べたら、いじめの定義が相手に精神的・肉体的苦痛を…快楽的に楽しむことを目的にしている、というのが定義で。

ということは、大人になっても、いじめがなくなることはないと思いました。それで、傍観者は傍観者でしかないと思ったので、ターゲットはいじめている人だけに向けました。で、調べていくうちに、いじめの事件はいじめられっ子が大体死んでいることが多くて、このポスターの一番最大の目的は何か、って考えたときに、いじめられている人をいかにして殺さないようにすることができるかなっていうところだと思ったので、いじめ問題から、逃がすじゃないですけど、距離をあけるかどうかを考えました。

で、A案は、いじめ相談ダイヤルへの誘導で、結構王道で考えました。

で、B案は、いじめられている人に、学校を休むだとか、転校するとか、っていう選択肢もあるよ、ってことで、いじめられているひとの選択肢を増やそうってことで二つ考えました。

小霜 : 3人。

【ホへへの戦略案】

いじめ防止ポスター ホへへ

自分なりに、
ポスターの方向性について悩みました。

イジメをやめるように訴えるもの。
イジメられてる側を助けようとするもの。

その方向性については色々あると思います。
ただ、過去の経験や、いまのボクの考えでは、
いちばん大切なのは、イジメが起きないようにすること。

起こってから、ではなく
起こらないようにすること。

いじめを本当に防止するには、
そこが一番大切なのではないかと考えました。

いじめ防止ポスター ホへへ

正直、戦略にはなりませんでした。

伝えたいひと
と
伝えたいこと

このふたつだけを決め、
どう伝えるのかについては
もうすこし考えていきたいです。

いじめ防止ポスター ホへ～

伝えたいひと
幼稚園児、小学生

伝えたいこと
誰かの弱みを見つけて、誰かを傷つける。
そんなことよりも、自分の強みをもって
ひとを喜ばせることのほうが、ずっと楽しいことなんだ。

いじめ防止ポスター ホへ～

伝えたいひと
幼稚園児、小学生

伝えたいこと
同じ人なんて、1人もいない。
できること、できないことがあるからこそ、
お互いに助け合える。

いじめ防止ポスター ホへ～

伝えたいひと

大人

伝えたいこと

いじめは、こどもだけの問題ではない。
大人である私たちひとりひとりが、
誠実に人と向き合う姿を見せること。
大人が本当に支え合えていれば、
きっとこどもたちも真似すると思う。

ホへ～： すいません、文字が小さくて見えづらいと思うんですけど、僕がいじめポスターについて考えたときに、もういじめを止めるというよりいじめが起こらないようにするということが一番の解決策だろうと、いじめを
起こらないようにすることが根本的に大切なことなんだろうなって思い、考えました。

恥ずかしい話、僕が小学校の時にいじめっ子で、当時のことを振り返りながら考えたんですけどあんまり
浮かばず、でも自分がいじめなくなったときのことを考えたときに、伝えたいターゲットが幼稚園児とか小
学生で、伝えたいことは、だれかの弱みを見つけて、誰かを傷つけることよりも、自分の強みを持って人を
喜ばせることの方がずっと楽しいということです。僕は、周りと違うことが不安で、自分と違うやつがいる
ことが不安で、ずっと力で押さえつけてたんですけど、その力を、誰かを助けることに使ったときに、周り
からほめられたことがすごいで嬉しくて、こっちの方が全然楽しいなってそこから徐々に変わっていったな
と、今の自分は思ってるんですけど、もっと早い段階でそういうことに気づけるってということがいじめを起
こさないことにつながるのかな、って思いました。

伝えたい人が、幼稚園児とか小学生とかで、伝えたいことが、できることとできないことがあるからお互い
に助け合える、っていうところ。さっきの話とつながっているんですけど。

で、最後伝えたい人が大人っていうおっきなくりなんですけど、いじめの問題は家族とか学校とか、そう
いう狭い範囲じゃなくて、すぐおっきな問題だなんて思って。子どもは、大人の背中を見て育つというか、
僕自身、親父がお母さんに当たったりしていたのを間近で見ていたこともちっちゃいときに影響あったのか
なって思うと、いじめは子どもの問題じゃなくて、大人である自分たちがちゃんと人に誠実に向き合う姿を

見せることで、子どもたちも真似をしてくれるのではないかな、と。思って、いじめ防止ポスターの案を考えました。以上です。

小霜：…8人ね。

【花火のストラテジー案】

いじめ防止ポスターA案 花火

- 競合: なし(強いていうなら、いじめホットライン)
- USP: ?
- ターゲット: いじめ被害者
- インサイト: 大好きな家族だからこそ、“いじめられてる”と言って心配させたくない
- Proposition: 心配をする余地すらく、自分の子どもを失うことの悲しさ
(エピソードをポスターに)

いじめ防止ポスターB案 花火

- 競合: なし(強いて言うなら、いじめる楽しさ)
- USP: 楽しさより、人を殺してしまう恐怖心のほうが勝る
- ターゲット: いじめ加害者
- インサイト: いじめてるのが楽しいし、相手が自殺するなんて思っていない。
- Proposition: 君がいじめてる相手が死んでしまったら、責任取れるの?
- いじめられっこの遺書を大きくポスターに載せる(恐怖心を植え付ける)

花火: まず、B案の方から説明したいんですけど、先月NPOのイベントのお手伝いをして、ハッピーバースデーって有名な本があるんですけど、いじめについての本なんですけど、その時に、いじめで死んじゃった子どもたちの遺書、お父さんお母さんに向けての遺書が展示してあったんですけど、その内容がほんとに涙が止まらないくらい悲しいもので、自分が生まれてきてほんとごめんねって内容だったんですけど、いじめてる人って、その場かぎりってというか、その先のことをあんまり考えていないなあって思って。別に相手に死んでほしいっ

てわけじゃなくて、死んじゃうっていうところまであんまり考えていないのかなって思って。だったら、これターゲットはいじめの加害者なんですけど、加害者が、恐怖心を持ってもらうっていうか、想定しているのが小学生高学年、中学生くらいなんですけど、いじている相手が死んじゃったらほんとに責任とれるの？って、そういう風に恐怖心に訴えかけるのがちょっと食い止めになるんじゃないかなって思いました。

A案の方がいじめの被害者で、インサイトとして、自分もちょっと昔いじめられっ子だったってのがあるんですけど、なんか家族に相談したくても、いじめられてるって言って、親を悲しませたくないなあっていう気持ちもすごくあって、だけど結局ほんとに仲がいい友達にしか相談できなくて。そのギャップとかに心がやられたりするのかなって思って。なんかプロポジションとしては心配する余地すらなく、あ、ごめんなさい、これターゲットが、いじめの親でした。すみません。で、いじめられている子って、いじめられているときって聞く耳持たなくて、子どもが言えないんだったら親が、言わせてあげられる環境をつくってあげられることって大事なんじゃないかな、って思って。で、親にも、自分の子どもがもしかしたらいじめられているかもしれません、って危機感を持ってもらいたくて、自分の子どもを失うことの悲しさとか、恐怖とかに訴えかけられる内容がいいな、と思って書きました。以上です。

小霜：はい。…2人。

【垢プリのストラテジー案】

東京都教育委員会／いじめ防止ポスター ストラテジー【A案】

垢プリ

ターゲット(メッセージを届けるべき相手)

いじめられっ子(被害者)

ターゲットインサイト(いじめから逃げられない理由)

- ・相談できる友達がない
 - ・「親に言ったらもっとひどいことをする」と脅されている
 - ・先生に話す勇気がない
 - ・「悩み相談室」のようなところで電話するのはハードルが高い(いきなり知らない大人と会話できない)
- ⇒誰にも話すことができず、一人で悩み続け、耐え続けなければならない状況から抜け出す術がない

解決策

メールで相談する(=誰にもバレない、ハードルが低い)

プロポジション(キーメッセージ)

誰にも知られないように、まずはメールで悩みを相談しよう

ターゲット(メッセージを届けるべき相手)

教師(傍観者)

ターゲットインサイト(いじめを止められない理由)

・解決方法が分からない＝【言い訳】
・最近の子供は何をしてかすか分からず、自分まで危険にさらされるかも＝【保身】
・放っておけば沈静化する(と願っている)
・下手に動いて、大きな問題にたくない＝【問題の軽視、他人事】
⇒とりあえず見て見ぬふりをしてやりすごそう

プロポジション(キーメッセージ)

いじめられている生徒が**自分の子供**なら、あなたは今と同じ行動をとりますか？
(言い訳や保身といった逃げの姿勢を変え、自分事に近づける)
⇒我が子のように、生徒を守ろう。

垢ブリ：いじめの主体、いじている人っていうのは、本能的であまり何にも考えていなくて、罪の意識もあんまりないなあって思ったのと、いじめられっ子の方はいじめに対して敏感であるなっていうところで、一つ目はターゲットをいじめられっ子にしました。で、相談できる友達がいなくて、先生とかに話したらいじめがエスカレートするし、勇気もなく、相談室みたいなのは、ハードルが高く、知らない大人と会話するのが難しいところ、一人で悩み続ける状況から抜け出すべがないところ、メールで相談したらどうかというところで、ハードルもさがり、だれにもバレることなく気軽に相談できるな、っていうところで、まずはメールで相談してみよう、っていうところなんです。

で、もう一つは現場にいる可能性のある唯一の大人であり傍観者である教師としては、解決方法がわからない、最近の子どもは何を考えているかわからなく、もしかしたら自分も巻き込まれるかも、という保身があって、放っておけばなくなる、消滅するだろうという問題の軽視、他人事とか、っていうところで、とりあえず見て見ぬふりをしてやり過ごそう、というところで、プロポジションとしては、いじめられている生徒が自分の子どもならあなたは見て見ぬふりをしますか、というところで、言い訳とか逃げの姿勢を変えられないかな、というところで、自分事のように生徒を守ろうっていうのはどうかな、と思いました。以上です。

小霜：はい。…1人。

【付き人のストラテジー案】

A案

ターゲット:いじめ加害者

ターゲットインサイト:
そこまで悪いことをやっているという認識がない。

プロポジション:やっていることは、『いじめ』ではなく、『犯罪』。

つき人

B案

ターゲット:親

もしなにか辛いことがあったら、
いつでも転校すればいい、社会は広いからというこ
とを日頃から子供に伝える。

つき人

付き人: まず A 案は、いじめている人って、いじめっていう行為が、そこまで悪いことをやっている認識がないと思っていて、やっていること自体は、暴力とか名誉棄損とか、内容は犯罪なのに、そういう認識がないと思った。犯罪は普通のひとはしないと思うんですけど、やっぱり犯罪だと思ってないから、軽い気持ちでやっちゃうと思ったんで、やっていることはいじめではなく犯罪なんだよ、ってわからせればいけるんじゃないかと思ったのが A 案。

B 案は、で?さんのやつとちょっと似ていると思うんですけど、学生のころって、ほんとに学校が社会の全部で、ほんとにスクールカーストとかありますけど、今思ったら、なんであんなに気にしてたんだろうっていうくらい気にしていて。仲間外れとかされたり。でもそういう、今行ってる学校が社会の全部じゃなくて、別に転校とかっていう手段もあるし、社会は広いっていうことを気づかせることが大事だと思っていて、とはいえそれを子どもだけが理解してても、親が理解していないと、「は?」とかってなると思うんで、子どもも自分がいじめられているってことを言いたくないけど、親が、「別にいつでも転校すればいいから。社会広いから。」って言ってあげてれば、もし辛いことがあったら、「転校したい」くらい、ボソツと言えるん

じゃないかな、って思って。こういう B 案にしました。

小霜：はい。…2人。

【ピロリのストラテジー案】

東京都教育委員会「いじめ防止ポスター」 ストラテジーA 案

解決策	ただのポスターではなく、相談窓口のような受け皿が必要だと思いました。 いくつかありますが「24 時間いじめ相談ダイヤル」は、原則として電話をかけた所在地の教育委員会の相談機関に接続。 http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/seitoshidou/1306988.htm
ターゲット	(いじている首謀者、いじめられている本人ではなく) いじめを傍観、同調しているその他大勢の子どもたち
インサイト	(誰かがいじめられているのを傍観、同調したりする自分はどこかで嫌だと思っているが) いじめる子に逆らうと 今度は自分がいじめられるかもしれない。
プロポジション	いじめの連鎖から、逃げろ。 <u>24 時間いじめ相談ダイヤル 0570-0-78310</u>

ピロリ

東京都教育委員会「いじめ防止ポスター」 ストラテジーB案

解決策	いじめられてる子がいたら、みんなで守る、助ける。いじめとは距離を置く。そんなグループを作っていく。学校、学年ごとにグループ長を募り、メンバーを募集する。
ターゲット	<p align="center">(いじめている首謀者、いじめられている本人ではなく)</p> <p align="center">いじめを傍観、同調しているその他大勢の子どもたち</p>
インサイト	<p align="center">(誰かがいじめられているのを傍観、同調したりする自分はどこかで嫌だと思っているが)</p> <p align="center">ひとりで行動をおこす勇気がない。</p>
プロポジション	<p align="center">いじめ「イチ抜け」たい員、募集！！</p>

ピロリ

ピロリ：私もすごく悩みました。A案は、まず王道として、ポスターだけだと、ちょっと両方（A、B案）とも解決するのが難しいなと思ったので、先ほどの？の案にもあったと思うんですけど、ホットラインを一つ解決策として入れております。ターゲットはいじめている首謀者と*いじめられている本人ではなくて*、いじめを傍観しているその他多くの子どもたち。で、インサイトは、「誰かがいじめられているのを傍観・同調している自分は嫌だとどこかで思っているけれども、いじめる子に逆らうと今度は自分がいじめられるかもしれない」、というところで、プロポジションは、「いじめの連鎖から逃げろ」で、ホットラインに導いてあげるというところなんです。文科省のいじめ追跡調査っていうのを見たんですけど、小学校6～中学校3年の間に8割の子どもがなんらかの形で陰口とか言われているっていう、いじめの前段階ではあるんですけど、もう全員が被害者になっている、まわりまわって、っていうことがあるので、やっぱり、そういうところにいるのは、みんなすごく嫌なんじゃないかな、という風に考えました。

B案の方は、同じように施策を考えたんですけども、解決策として、いじめられてる子がいたら、みんな
で守る、助ける、いじめとは距離を置く、そんなグループを作っていく、学校学年ごとにグループをつくっ
て仲間を募るっていうことができないかな、と考えました。ターゲットは同じ、いじめを傍観しているその

他大勢の子どもたち。でインサイトとしては、「誰かがいじめられているのを見ているのは嫌なんだけど、一人で行動を起こす勇気がない」、というところ。プロポジションは、「いじめイチ抜け隊員募集」というところで考えました。

小霜：はい。…ゼロ。

【世界の野糞のストラテジー案】

前段)

いじめは動物本能。群れる生物には、いじめがある。

外敵から身を守るために、群れの中で順位付けを行い、

危機が訪れた際に、スムーズに危機回避するシステムを設けている。

「いつ自分が、その最下位に順位付けされるか分からない」という「恐怖心」が、

いじめの原動力になっている。

他者より優位に立とうとするために、誰かをいじめる。

(劣等感を抱いている人が、いじめる人になりやすい)

いじめの標的は、「みんなと違う人」。

「違う」ということが、いじめるキッカケになりやすいから。

身体的特徴が違っていたり、言動が特徴的だったり。違っていれば何でも良い。

(「美人」という「違い」も、いじめの標的になる)

いじめを見て見ぬ振りするまわりの人たちも、

「恐怖心」から、いじめを止めさせることができない。

矛先が自分に向くのが怖いから。見て見ぬ振りするのは、自己防衛手段。

ただし、傍観することに罪悪感を感じている。

その罪悪感を拭うために、自分に言い訳をしているのでは？

「私がいじめているわけではないのだから、私は悪くない」

どうすればいじめがなくなるか？ 方法は2つ。

A：いじめている人が、(自発的に) いじめをやめる。

B：まわりの人が、いじめをやめさせる。

【ストラテジーA】

ターゲット：いじめている人

インサイト：(自分が属す集団内に) 居場所がちゃんとあるのか分からず不安。

プロポジション：いじめをしなくても、あなたの居場所はちゃんとあります。

<意図>

いじめている人は、いじめをすることで、自分の居場所を確立できると

思っているが、居場所を確立する(他者より優位に立つ)ことはおろか、

ゆくゆくは集団内で孤立してしまう(居場所がなくなってしまう)。

自分の居場所は、いじめをせずとも、ちゃんとあるということに気づき、

安心してもらうことが、いじめ防止につながるのではないかと？

【ストラテジーB】

ターゲット：(自分のまわりで起きている) いじめを傍観している人

インサイト：いじめの矛先が自分に向きそうで怖い。

プロポジション：あなたがいじめられても、仲間が助けてくれれば、そのいじめは
なくなる。今いじめられている人の仲間は、あなたたちです。

<意図>

「私がいじめているわけではないのだから、私は悪くない」という言い訳を否定し
つつ、その言い訳の裏にある「(自分が標的なることの) 恐怖心」よりも強く、
「(同じ集団にいる) 仲間意識」を高められれば、
彼らは、「いじめを止めさせる」ための発言をする勇気を持てるのではないか？

世界の野糞：ストラテジーA,B にいく前に、あらためて自分でいじめというものを調べたり考えたり話したりしてみ
たんですけども、前段がまとめたやつなんですけど、いじめっていうのは動物の本能で、群れる生物に
はいじめがあることを今回初めて知りました。外的から身を守るために群れの中で順位づけをおこなっ
て、危機が訪れたときにその危機回避する方法なんだなって。それでいつ自分がその最下位に順位づけ
られるかわからないっていう恐怖心がいじめの原動力になっているのかなって思いました。他者より優
位に立とうとするために、誰かをいじめるっていうこと。あとやっぱり、自分の経験とか、妻も一回い
じめられたことがあるんですけども、劣等感を抱いているひとがいじめを起こしやすいって、こうい
うところが起因しているのかな、と思いました。で、いじめの標的というのは、みんなと違うひと。違
うことがいじめのきっかけになりやすいから、ただそれだけの理由でいじめてるのかな、と思いま
した。で、具体的に、身体的特徴、が違ってたりとか、言動がちょっと特徴的だったりとか、まあ違っ
ていけばなんでも良くて、たとえば、美人とかもいじめの標的になったりしていると。いじめを見て見
ぬふりする周りの人たちも、恐怖心からそうなるのではないかと。それは、矛先が自分に向くのが怖い
から。見て見ぬふりするの、ある種の自己防衛手段なんじゃないかなって。ただし、傍観することに罪

悪感を感じていて、その罪悪感をぬぐうために、自分に言い訳しているのではないかなって思いました。私がいじめているわけじゃないんだから、私は悪くないって思っているんじゃないかなって。ここまでは僕の思ったいじめの話。

で、ここから、どうすればいじめがなくなるかなって考えたときに、方法としては二つあるかなって。いじめをしている人が自発的にやめるようになるか、あるいは周りの人がいじめをやめさせるか。で、それをストラテジーA,Bで作ってきました。

ストラテジーAは、いじめている人がターゲットで、インサイトは、「自分が属している集団内に居場所がちゃんとあるのか分からず不安だ」という。プロポジションは、いじめをしなくても、「あなたの居場所はちゃんとあります」というものです。意図としては、いじめている人は、いじめをすることで自分の居場所が確立できると思っていると思うんですけど、それって自分の居場所を確立することはおろか、ゆくゆくは孤立してしまう。で、自分の居場所っていうのは、いじめをしなくてもちゃんとあることに気づいて安心してもらってというのが、その人がいじめをすることをやめさせることにつながるんじゃないかな。

B案は傍観者ですね。いじめを傍観している人。いじめの矛先が自分に向くのが怖いというインサイトがある。で、プロポジションは、「あなたがいじめられても、仲間が助けてくれれば、そのいじめはなくなりますよね。今いじめられている人の仲間は、あなたたちです」というものです。で、意図は、「私がいじめているわけではないんだから私は悪くない」と言い訳を否定しつつ、その言い訳の裏にある恐怖心よりも強く、同じ集団にいるという仲間意識を高められれば、いじめをやめさせるための発言をする勇気を持てるんじゃないかな、とっていて。その勇気づけるためのメッセージを送ってあげたらいいんじゃないかな、って思いました。以上です。

小霜：はい、じゃあ挙手。…2人。

じゃあね、ここから先は、グループワークにしようかな、と。今日ここに来ていないのは、シカシカだけ？
だよ。今から遅刻してくる人はいないよね。

コゲ太：はい、シカシカだけです。

小霜：じゃあ、2グループにわけます。で、僕がシカシカだとすると、僕入れて、多分18人なんだよね。で、僕から右に数えて9人。(シカシカ、食い丸、ネチ・ネチ老、垢プリ、未満、で？、世界の野糞、おにぎり) …で、一人(花火)飛んで君(センター)までがグループ、それ以外がグループで。
票が多かったのは11票(センター)と、10票(ホへ〜)だよ。だから11票取ったセンターがAグループのリーダー、10票取ったホへ〜がBグループのリーダー。わかる？

で、2グループに分けて、各2案ずつ表現を考えると。それぞれグループで討議してってことね。それで僕を東京都教育委員会の委員長だと思って、再来週のこの時間にそれぞれプレゼンしてもらおうと。OK? 言っている意味理解できない人いるかな?

ピロリ : 今出しているストラテジーに基づいた表現案?

小霜 : いや、これは一回リセット。で、僕が今から改めてオリエンをします。

今まで、いじめをやめようというメッセージっていうのは各学校でも発信してきているし、社会的にも発信されているし、家庭でも伝えられているはずであると。それなのに一向にいじめ問題がおさまらない。それはなぜだろうか。

仮説1 : いじめっ子はその行為をいじめと認識していない。

仮説として考えられるのが、いじめっ子はその行為をいじめと認識していないのではないだろうか。いじめを認識していないのに、いじめをやめようと言っても、効果出るわけがない。

たとえばね、セクハラってあるじゃない。たとえば俺はね、マネージャーの坂根に、「おまえもいい歳なんだからそろそろ子ども作れよ」って。彼女の人生に良かれと思って言ったりするんだけど、これってさ、ある人から見たらとんでもないセクハラだってなっちゃうかもしれないよね。俺は全然そんなつもりないわけよ。彼女も笑って、「そうだよー」とか言ったりするんだけど、でも、もしかしたらほんとは坂根の心のなかでは、「ひどいセクハラだ」って悩んでるかもしれないよね。でもわからない、全然。だから、いじめっていうのもそんなものかもしれないよね。いじめっ子は悪ふざけだと思ってるかもしれないけど、「え? 俺のやってたこといじめだったの?」っていうことがあるんじゃないかなって。だから、いじめっ子は自分の行為がいじめという認識がないのではないか、という仮説が一つ。

仮説2 : いじめられている子は自分が悪いと思っている。

で、もう一つね、いじめられてる側の子ね。いじめられている方は、自分が悪いと思っているんじゃないだろうかっていうね。つまりね、さっき言ったじゃない。『明日ママがいない』っていう話でさ、親に暴力振るわれたり、親に捨てられる子どもっていうのは、自分が悪い子だからだっけと思うのよ。親が悪いって思うのは、第三者なのよ。当事者じゃなくて。でね、小学校とか中学校とかに行くと、親の影響より友達の影響の方がはるかに大きくなっていくわけ。その時ね、友達にいじめられたら、「あ、自分は、こんな酷いことをされるくらい、ダメな人間なんだ」「自分は悪い人間なんだ」って、いじめられている側はそう思っているかもしれないよね。いじめている側が悪いなんてのは第三者が考えることで、当事者はそうじゃないかもしれない。

そういう仮説に立った時に、どういうコミュニケーションをとれば、いじめ問題が少しでも軽減されるだろう

か、というオリエン。

ピロリ：ポスターの中で完結している必要はありますか？

小霜：さっきみたいにどっかとリンク貼ってあるっていうのとか？

ピロリ：リンクだったり、何かそういう受け皿を作ってあげるっていうのだったり、あとはネットだったりっていうところ。

小霜：ん〜、それは、そうだな…まあ程度問題かなあ。

で？：今一度確認なんですけど、これは、公立の中学校と高校に貼られるって設定ですよ？

小霜：うん。

で？：なんか見ていると、結構、親とか、ターゲットにしている人もいたので。

小霜：それは、ターゲットは違う。

で？：じゃあ、日常的に貼られているってことですよ。

小霜：そうだね。クラスに貼ってあるという想定かな。

ピロリ：生徒がほぼ見るってことですよ。

小霜：ん〜。いやあの、リンク先というか、ポスターを見て、どっかいくとか、何かアクセスしろっていうのがあってもいいんだけど、そういう風な行動を促すためには、やっぱりポスターのメッセージが、強いものじゃないとダメだよ。強っていうのは、「動いてみよう」っていう。だから子どもたちを動かすメッセージって何だろうっていうことなんだよね。ポスターの文字を見ていじめが収束するでもいいし、ポスターを見て何かをすることで結果的に収束するでもいいと思う。

ピロリ：仮説の①で、いじめっ子が自分がいじめているっていう認識をしていないっていうことが本当にあると思っ

ていて、これすみません、質問になっていないかもしれないんですけど、そうすると、いじめている子に向けて何かをメッセージするっていうのが、私それでストラテジーがつかれなかったんです。難しすぎて。それって可能性があるのかなあ、っていうのが非常に、いじめている本人が、「自分がいじめている」ということに気が付いていないっていうところですよ。

小霜：うん。いや、やり方はあると思うよ。

ピロリ：それを気づかせるみたいなのところ、ですか？

小霜：ん～、いや、ヒントを言うと、いじめっていう言葉を使わないってこともあるかもしれないよね。いや、「いじめやめよう」って言ったときにね、そのいじめっ子は、「ほんとにそうだよ、いじめは許せん！」って言いながらいじめているっていうこともあるかもしれないよね。だからいじめっていう言葉を使わないで、違うやり方、「こういうことやっちゃだめだよ」って言ったら、「ああ、これやっちゃだめなんだ」ってわかってくれるかもしれない。だから不可能ってことは、僕はないと思う。

センター：いじめの程度を減少させるのか、いじめの数を減らすのか、もしくはいじめられっ子がなんとかなっちゃうのを減らすのかっていうのはこっちが選んでいいんですよね？

小霜：え、ごめんもう一回言って。

センター：解決方法が、いじめそのものの数を減らすのか、いじめられている子の精神的苦痛を減らすのか、なんかその抜本治療的なものと、対処療法的なものがあると思うんですけど。

小霜：そういう意味では前者。

センター：数を減らすっていう？

小霜：うん。いじめるという行為をなくすという。いじめられている子をなくさめるとかそういうのではない。

センター：あー、それはちょっと勘違いしていました。

ピロリ：いじめられている子を救うってことじゃなくて、いじめ自体の数を、なくしたり減らしたりっていう。

小霜：いや、救うのでいいのよ。たとえばさ、いじめられた子がいて、その子がクラス移りました、転校しましたってことで、いじめがなくなったら、それはそれで、いじめがなくなっただけってことにはなるよね。いじめられている側の行動でいじめがなくなるってということもあるよね。それでもかまわない。

世界の野糞：仮説①、②に対して、それぞれ一つの表現を？

小霜：そういうわけではない。

世界の野糞：どっちか選ぶ？

小霜：わけではなくて、いじている側は、いじている認識がないのではないかと、で、いじめられている側は、いじめられている自分も悪いって風にも思っているんじゃないだろうか、って仮説に立ったうえで、どう解決できるかってこと。

世界の野糞：なるほど。

小霜：いや、いじめと言ってもね、それこそほんとにいろんなパターンがあると思うのよ。たとえばね、うちの長女は公立の近くの中学校に行ってたんだけど、途中で私立に転入したのね。それはね、いじめというよりは、嫌がらせする子がいるわけね。それで、その子はどういう子かっていうと、家庭に問題があるみたいで。お母さんもちょっと精神状態が怪しいらしいんだけど。それで、母子で、カウンセラーに通っているっていうね。だから、なんかちょっとおかしいんだよ。先生が言ったってなにも効き目がない。で、じゃあどうするって話なんだけど、「もういいや、転入させます」と。「だってね、そんな子と付き合っていると、うちの子が病むかもしれないじゃないか、親としてはそういうリスクは取りたくないから」って言って。それ以外解決法がわからなかった。そういうこともあるよ。あらゆるいじめに効く、万病に効く薬を開発しようっていうのじゃなくてもいいわけね。こういうパターンのいじめは解決できるよ、ってだけでも、そっちは減るじゃない。少しは減る、って、そんな考え方もいいと思うわけ。

で？：なんか、感想になっちゃうんですけど、私たちが小中学生の頃とかと比べると、格段にいじめの幅が広がっているな、って思った出来事があって、調べていくうちに、いまツイッターで「なりすましいじめ」ってのが流行っているらしくて、いじめるターゲットの子になりすまして酷い発言をして炎上させるのがいじめらしくて、だからなんか、全部をカバーしなくていいんだな、って思ったらちょっと。

小霜：そうだよ。いま、SNSとかもあってさ、いじめっていうと、物理的になんかこうね、アクションでやるっていうのを連想するんだけど、いま、ネットで誹謗中傷してとか、その子を落とし穴に入れて、罠にはめて、みたいな、結構陰湿化しているんだよね。どんどんと。まあ、教育側の問題もあると思うけど。一つはね。いじめっていう問題が起きると評価に響くから、最初からなかったことにする、あっても見て見ぬふりをするっていう学校が多いみたいね。解決するってことは、そこにあるってことだからさ。だから、解決しなければ、元からなかったことになるって。そういう歪んだシステムのこともあると思うんだけど、ちょっとその辺りは置いといて。

小霜：ほかになんか疑問とか質問とか、ある？じゃあ、残りの時間、チームで分かれて、Aチームがあっちのテーブルを使うと。で、Bチームがこの辺を使って少し討議してほしい。

垢ブリ：ストラテジーをつかってA,B考えるってこと？各々のなかで？

小霜：うん。

ピロリ：A案B案？

小霜：そう。表現を。

ピロリ：表現を二案？

小霜：うん。それで、ストラテジー一つで表現二案でもいいし、ストラテジー一案表現一案、ストラテジー一案表現一案でもいいし。とにかく、表現が計2案になればいいと。だから、AチームBチーム合わせて、表現が4案できるよね。

ピロリ：たとえばストラテジー一案で表現を2案考える場合って、A案が王道で、B案がもっと飛んだ、っていうのは認識した方がいい？

小霜：それは認識しなくていい。

で？：単純に表現案2案？

小霜：うん。……あ、じゃあね、こうしよう。今からね、AチームBチーム分かれるでしょ？で、討議するなかでさらにここからAチームBチーム分かれる。で、別れ方は任せます。で、4チームに分かれて、4チームが、各一案ずつ。

ピロリ：ストラテジー一案表現一案？

小霜：そういうこと。

付き人：それAのなかで分かれたAとAダッシュがあるとして、そのAとAダッシュはもう全く別のチームなんですか？それともAという大きいくり？

小霜：全く別。…大きなくりと全く別でどう違うの？

付き人：いやなんか、AとAダッシュで、ちょっと相談してみたり。

一同：笑

小霜：あはは。そういうことか。ん～、そうだねえ。まあでも、やり口は途中まで分かっているからね。一つのチームとしてやっているわけだから。やり口でいうと全く別のチームとは言えないかもしれないね。そういう意味で言うと。

で？：それって、A1、A2って分かれたときに、一回やっぱり固まってちょっと全体話し合おう、ってのもありなんですか？

小霜：ん～……じゃあもう、わかった！

一同：笑

小霜：じゃあもう、全体のくりで、A,Bっていうのにしようか。それでA1チームA2チームと、B1チームB2チームっていう風にしようか。最終的に4チームになっていれればいいや。

小霜：なんか、社内競合みたいだね。「我が社は、やる気を感じていただくために、今回2チーム立てて参りました！」みたいなさ。

一同：笑

おのおの、分かれてミーティングタイム

30分後……

講義終わり

一同：ありがとうございました。